

### 図書館展示 曲亭馬琴の文芸

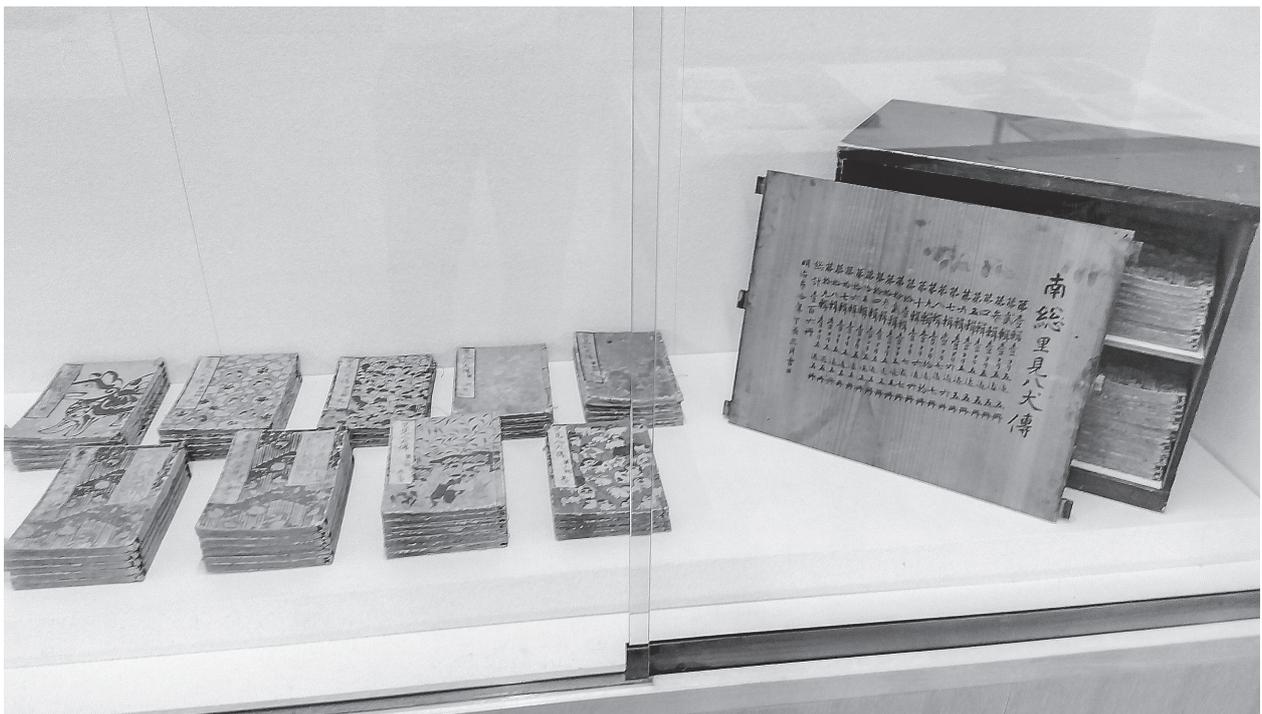
文学部国文学科 准教授 中尾和昇

近年、<sup>つた や しゅうざぶろう</sup> 蔦屋重三郎を中心とした近世の出版文化に注目が集まっています。十八世紀後半、成熟した江戸の都市文化を背景として、さまざまな書物が「<sup>はんぼん</sup> 版本」として広く流通しました。なかでも、蔦屋が手がけた「<sup>きびょうし</sup> 黄表紙」「<sup>しやれぼん</sup> 洒落本」「<sup>きやう</sup> 狂歌」などの戯作は粋な江戸っ子の心をつかみ、大いに流行しました。本展示の主役である<sup>きょくていばきん</sup> 曲亭馬琴も、そんな世界に魅了された一人でした。

曲亭馬琴は、<sup>のぶなり</sup> 旗本松平信成の用人であった<sup>おきよし</sup> 滝沢興義の五男として誕生しました。本名は<sup>おきくに</sup> 滝沢興邦（後に「<sup>とく</sup> 解」と改名）。17歳の時に家を出奔、いくつかの旗本を渡り奉公した後、山東京伝の門戸

を叩いて戯作者に転身します。当時流行の黄表紙を手はじめに創作活動をスタートさせますが、40歳ごろから『<sup>すいこでん</sup> 水滸伝』『<sup>さんごくしえんぎ</sup> 三国志演義』などの中国白話小説にならった「<sup>よみほん</sup> 読本」というジャンルの作品執筆を本格化し、『<sup>げっぴやうきえん</sup> 月氷奇縁』『<sup>ちんせつゆみはりづき</sup> 椿説弓張月』などの傑作を続々と刊行、当代きっての読本作者の地位を確立します。

馬琴は読本のほかにも、<sup>ごうかん</sup> 合巻・随筆・俳諧・浄瑠璃といった、多様なジャンルの文芸に携わっていますが、後半生は言語・歴史・思想・民俗などの学問的著述を本格化させます。そのなかで、<sup>むらじょうさい</sup> 村篠斎・<sup>きむらもくろう</sup> 木村黙老・<sup>おづけいぞう</sup> 小津桂窓ら知識人と交流を



『南総里見八犬伝』は全巻が揃っている



『八犬伝』に登場する八犬士の一人・犬坂毛野（旦開野）

深め、「評答」という他に例を見ない「作者—読者」の関係を構築しました。

奈良大学図書館には、曲亭馬琴の作品が多数所蔵されています。なかでも『南総里見八犬伝』は全巻が揃っており、大変貴重なものです。今回は『南総里見八犬伝』を中心に、馬琴のさまざまな作品を展示しました。馬琴の著作を通して、江戸文芸の魅力を味わっていただければ幸いです。

以下、図書館に所蔵している後期読本、合巻を紹介させていただきます。機会があればご覧いただければと思います。

後期読本—江戸の伝奇小説—

- ・月氷奇縁 [913.56/Ta73/1 ~ 5 (439210 ~ 439214)]
- ・三国一夜物語 [913.56/Ta73/1 ~ 5 (438758 ~ 438762)]
- ・雲妙間雨夜月 [913.56/Ky4/1 ~ 5 (447391 ~ 447395)]
- ・三七全伝南柯夢 [913.56/Ky4/1 ~ 6-2 (431167

~ 431173)]

- ・南総里見八犬伝 [913.56/Ky4/1-1 ~ 9-53-2 (361400 ~ 361505)] ※箱入り

2. 合巻—江戸の絵入小説—

- ・敵討勝乗掛 [913.56/Ta73/1 ~ 2 (437912 ~ 437913)]
- ・縁結文定紋 [913.57/Ta73/1 ~ 2 (416745 ~ 416746)]
- ・今戸土産女西行 [913.56/Ta73 (441987)]
- ・傾城水滸伝 [913.56 / Ta73/1-1-1 ~ 8-2-2 (383405 ~ 383436)]



『八犬伝』の表紙 犬の模様になっている

# 図書館展示 新収蔵品『中国佛教版畫全集』と日本の絵画

文化財学科 教授 原 口 志津子

『中国佛教版畫全集』は、歴代の仏教版畫を収集した一大全集です。

絵画のなかでも、版画といえば大量に複製できるために一点ものの絵画よりも格下に見られることもあります。しかし、版画になるということは規範になるということでもあり、仏教の教えを広範な対象に伝播する有効な手段とみなされていました。

今回購入された『中国佛教版畫全集』は、3000点以上の仏画35000点以上の版画を収録し、破損・断片化した作品、数千点の經典、公私にわたり収蔵されてきたものから編集されたものとなっています。中国の仏教美術・版画を一堂に会させた初めての集大成として、それらが作成された時代背景を確認する資料となります。

今回の展示では、日本に輸入された版画に焦点を当て、それらがどのように日本の絵画に影響を与えたのかを考察した研究を紹介します。

展示書籍および複製目録

- ・『中国佛教版畫全集』（新収蔵品） 奈良大学図書館蔵 (702.098/C62 458998-459105)
- ・真保享編『仏伝図』（毎日新聞社、1978年）奈良大学図書館蔵 (721.1/B97 908196)
- ・京都国立博物館編『狩野派の絵画』（1978年）奈良大学図書館蔵 (721.4/Ka58 002861)
- ・土谷真紀『初期狩野派絵巻の研究』（青簡舎、2019年）奈良大学図書館蔵 (721.4/Ts32 445247)
- ・原口志津子編著『本法寺蔵法華經曼荼羅図—法華經をめぐるイメージの世界—』（法藏館、2024年）奈良大学図書館蔵 (186.81/H32 912878)
- ・原口志津子編著『描かれた法華經：本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の時空（アジア遊学：301）』（勉誠社、2025年）奈良大学図書館蔵 (721.1/H32 916127)





「釈迦堂縁起」太子誕生の場面 京都国立博物館編『修理完了記念特集展示 重要文化財 釈迦堂縁起』(2025年) 奈良大学図書館蔵

- ・京都国立博物館編『修理重要文化財釈迦堂縁起：修理完了記念特集展示』(2025年) 奈良大学図書館蔵 (069.9/Ky6 917951)
- ・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」第22幅(複製) 奈良大学・原口研究室蔵
- 清凉寺(嵯峨・釈迦堂)蔵「釈迦堂縁起」と版本「釈氏源流」

清凉寺(嵯峨・釈迦堂)に蔵される「釈迦堂縁起」(重要文化財全六巻)は本尊の釈迦如来立像が釈迦の生身像として成立し、それが入宋した奄然ちやうなんによって日本にもたらされ、清凉寺に安置され、靈験を示したことを描く絵巻物です。狩野元信(1477～1559)が描いたと認められており、永正12(1515)頃の制作とされます。

この絵巻物のうち、釈迦の生涯を描いた部分と『中国佛教版畫全集』巻二十四の『釈氏源流』とを比較してみましょう。『釈氏源流』は、中国・明代の僧侶・釈宝成しゃくほうせいが編纂したもので、釈迦の生涯や中国・インドの高僧の伝記を文字と版画とで紹介したものです。明の洪熙元年(1425年)に刊行されて以来、東アジアで広く流布し、日本にも影響を与えました。



樹下誕生 『中国佛教版畫全集』二十四巻 『釈氏源流』上 と「釈迦堂縁起」巻一の三 太子の誕生 の場面

## 後記

「みささぎ」38号をお届けします。まずは原稿をいただきました中尾先生、原口先生にお礼を申し上げます、ありがとうございました。

中尾先生には9月から11月にかけて、図書館展示室での展示を行っていただきました。図書館の収蔵品での展示もいいボリュームになってきます。原口先生には12月から2月にかけて特別集書での収蔵品について、版画全集と本法寺の法華経曼荼羅図との比較も展示いただきました。AI流行りの昨今でも、紙媒体重視の姿勢がうかがえます。

次号は9月ごろの発行を予定しております、お楽しみに(編集担当)

発行：令和8年3月10日

編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町1500